

E021 三島溶岩製石燈籠（静岡県GEO DATA(15)：地学散歩(94)）

著者	増島 淳
雑誌名	静岡地学
巻	114
ページ	iii-iii
発行年	2016-11-23
出版者	静岡県地学会
URL	http://doi.org/10.14945/00024540

E021 三島溶岩製石燈籠



国土地理院 1:25,000 三島

駿東郡長泉町・願掛八幡神社境内には一対の三島溶岩製石燈籠がある。左側の燈籠は寛永19年（1642）に奉納にされ、火袋以外の部分は灰色の三島溶岩で構成されている。火袋だけは黒色の三島溶岩製で、二つに割れたものをつなぎ合わせてある。右側の石燈籠は全体が黒色の三島溶岩製（左側の燈籠の火袋と同質）で、明治14年（1881）に奉納され、火袋に破損・修理の跡がある。寛永19年奉納の石燈籠は、安政地震（1854年）で倒れて火袋が壊れ、火袋なしで放置されていたが、

27年後（明治14年）に黒色の三島溶岩製燈籠が奉納された際、同質の石材で火袋を作り直した。それから49年後2基の石燈籠は昭和5年（1930）の北伊豆地震で共に倒れ火袋が破損したが、補修し現在に至っている。このように沼津市を含む北駿地域から三島市を含む伊豆地域に残る古い石燈籠を丁寧に観察すると、火袋だけ石材の異なるものが目立つ。これらの石燈籠は過去の地震被害を現代に伝える大切なジオサイトである。（増島 淳）